

# ASEANと日本をつなぐ

## — 日外協の草の根国際交流

### 大きく広がる交流の輪

#### 「第36回日本語スピーチ発表会」を開催

(主催=日外協、共催=日本アセアンセンター、後援=国際交流基金、協力=早稲田大学・国際学生友好会)

第36回日本語スピーチ発表会が10月27日(木)、日本アセアンセンターのアセアンホールで開催された。

カンボジア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイの6カ国から来日した8人が日本語スピーチを披露した。



左からテット・ソッキーさん(カンボジア)、ムハンマド・ムハイミン・ハイロンニザムさん(マレーシア)、シラーポーン・サイヤラーダさん(ラオス)、キン・メイ・キューさん(ミャンマー)、ニチャー・サムパイブーンさん(タイ)、カノクポーン・ウィラッチパンさん(タイ)、マリリン・アンジェリナ・タン・ペレスさん(フィリピン)、パブ・エリオソ・パンガンさん(フィリピン)

### 3年ぶりに対面で開催

日外協では「日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業」を1986年から実施。今回で36回目となる。ASEAN各国の代表を日本に招き、1週間の滞在期間中に企業訪問や文化交流などを体験してもらう。スピーチ発表会もその一環として開催されてきた。

ところが、コロナ禍のため2020年は中止、21年は発表会など一部のイベントだけを各国とオンラインでつないで実施することを余儀なくされた。

今回は3年ぶりに、コンテスト優秀者を実際に迎えての開催となった。コロナ禍で現地大会が行われなかった国もあり、ASEAN10カ国中6カ国から8人の代表が来日した(タイとフィリピンからは今年と昨年の優秀者の各2人が参加)。

## さらに強固なかけ橋を

スピーチ発表会は感染対策を十分に行い実施。ASEAN各国の大使館、関係者など約40人が出席した。



発表会には ASEAN 各国の大使館関係者も駆け付けてくれた

開会挨拶に立った日外協・上野幹夫会長(中外製薬(株)特別顧問)は、出席者への謝辞を述べるとともに、招へい者が累計で353人になったことを紹介。その多くが帰国後も留学や就業を通して日本と関わり続けているなど、家族や関係者を含めると数万人にも上る様々な交流の輪、ネットワークが広がっていると述べた。そして、発表者が横のきずなをつくり ASEAN と日本の友好を深めてほしいと望んだ。

日本アセアンセンター・平林国彦事務総長は、日本と ASEAN との間にかけ橋をつくるのが同センターの使命であると語った。特に最も大事なかけ橋は人であり、中でも若い世代であると強調。来年は日本と ASEAN の友好協力 50 周年の節目であり、言葉の力で人の心を変えていくことができる発表者の皆さんには「パートナーとなって、さらに強固な橋をかけてほしい」と期待を寄せた。

続いて8人の代表が次々と登壇し、日本語でスピーチ。自身の体験を踏まえ、希望や抱負を語った。

講評に立った桜美林大学・馬越恵美子教授は、コロナ禍をはじめ様々な困難を乗り越えた一人ひとりの健闘をたたえた。



発表者一人ひとりに講評する馬越教授

特別表彰に移り、「日本アセアンセンター事務総長賞」にマレーシアのムハンマド・ムハイミン・ハイルンニザムさん、「日外協会長賞」にミャンマーのキン・メイ・キューさんが選ばれた。



日本アセアンセンター事務総長賞を受賞したムハンマド・ムハイミン・ハイルンニザムさんと平林国彦・日本アセアンセンター事務総長



日外協会長賞を受賞したキン・メイ・キューさんと上野幹夫・日外協会会長

なお、発表会の模様はオンラインで同時配信。発表者たちの母国からも温かい拍手が送られた。